

社説
移民配耕に
考量を要す (下)

ところが、邦人中にも理屈一方に走る人々は、日本帝國の偉大さを表看板に「日本移民好ましからぬ送らねがよい」と云ふのであるが、それなら日本民族は何處に行く? 食ふ物へ見出すなら依然極東の小領土に隠居して可なるか云ふに、それは却々さうはいかないのである。

二 何人になれば、我々日本民族の使命は、長くも神天皇が御天征の廟一天業を恢弘し、天下に光宅せん」と仰せ出されたやうに、大和民族の創造する精神文化を、普く全世界に押し振り、全人類の幸運を平等に増進し、以て世界の平和を招へんとするのが根本であるが故に、我々は少し位ひの困難や不愉快がどうしても、發展して見込みの有る場所へは、有る限りの方法を盡して躍進せねばならないのだ。

三 この意味からして、我々のアーヴィングは、我々日本民族の理想の實現であり、世界和平の大殿堂建立のものであるから、我々は永遠アーヴィングに賛みまり

神戸駐在伯國總領事オスカル・コーン氏は、我々の子孫を最も優良なるアーヴィングに仕立上げ、此の大アーヴィング更に、世界優秀の大文化國たらしめられなければならないのである。ではあるが、現在伯國に住む二十万同胞の健良性を維持し、且つ効果的ならしむるには、我が日本から新たな後継者の來つて、我々に刺繡を與ふるにあらざれば、我々の子孫がアーヴィングの大變化になる後継者の來つて、我々に退化するを免かれないのであるから、我々は最善を盡して現在の二分制限を緩和すると共に我々の後継者たる新同胞な、ヨリ多く北米に於ては他に産出はなく、悉く此の海外に仰がねばならぬ國務なるをアーヴィングに叫びし況んや他國に於ては専らなりあなければならぬのだから、サン更に前表一九三四年度分を輸入圖

聖中市中央市場

格價及数量

種類	数量	價格
アルフアセ	八〇袋	六八圓
サツマ芋	七一八	九圓
コロベ・ブヨール	一二一八	一六一八
レモン	二二兩	二二兩
ビメント	三〇八箱	五、五一六
ピーマン	六五七	四五二箱
トマト	一三二四	二六九袋
ガーネット	一一九	一三三八袋
トマト	一一九	一三〇四袋

七月十九日

七月二十日

七月二十一日

七月二十二日

七月二十三日

七月二十四日

七月二十五日

七月二十六日

七月二十七日

七月二十八日

七月二十九日

七月三十日

七月三十一日

七月三十二日

七月三十三日

七月三十四日

七月三十五日

七月三十六日

七月三十七日

七月三十八日

七月三十九日

七月四十日

七月四十一日

七月四十二日

七月四十三日

七月四十四日

七月四十五日

七月四十六日

七月四十七日

七月四十八日

七月四十九日

七月五十日

七月五十一日

七月五十二日

七月五十三日

七月五十四日

七月五十五日

七月五十六日

七月五十七日

七月五十八日

七月五十九日

七月六十日

七月六十一日

七月六十二日

七月六十三日

七月六十四日

七月六十五日

七月六十六日

七月六十七日

七月六十八日

七月六十九日

七月七十日

七月七十一日

七月七十二日

七月七十三日

七月七十四日

七月七十五日

七月七十六日

七月七十七日

七月七十八日

七月七十九日

七月八十日

七月八十一日

七月八十二日

七月八十三日

七月八十四日

七月八十五日

七月八十六日

七月八十七日

七月八十八日

七月八十九日

七月九十日

七月九十一日

七月九十二日

七月九十三日

七月九十四日

七月九十五日

七月九十六日

七月九十七日

七月九十八日

七月九十九日

七月一百日

七月一百零一日

七月一百零二日

七月一百零三日

七月一百零四日

七月一百零五日

七月一百零六日

七月一百零七日

七月一百零八日

七月一百零九日

七月一百零十日

七月一百零十一日

七月一百零十二日

七月一百零十三日

七月一百零四日

七月一百零五日

七月一百零六日

七月一百零七日

七月一百零八日

七月一百零九日

七月一百零十日

七月一百零十一日

七月一百零十二日

七月一百零十三日

七月一百零四日

七月一百零五日

七月一百零六日

七月一百零七日

七月一百零八日

七月一百零九日

七月一百零十日

七月一百零十一日

七月一百零十二日

七月一百零十三日

七月一百零四日

七月一百零五日

七月一百零六日

七月一百零七日

七月一百零八日

七月一百零九日

七月一百零十日

七月一百零十一日

七月一百零十二日

七月一百零十三日

七月一百零四日

七月一百零五日

七月一百零六日

七月一百零七日

七月一百零八日

七月一百零九日

七月一百零十日

七月一百零十一日

七月一百零十二日

七月一百零十三日

七月一百零四日

七月一百零五日

七月一百零六日

七月一百零七日

七月一百零八日

七月一百零九日

七月一百零十日

七月一百零十一日

七月一百零十二日

七月一百零十三日

七月一百零四日

七月一百零五日

七月一百零六日

七月一百零七日

七月一百零八日

七月一百零九日

七月一百零十日

七月一百零十一日

七月一百零十二日

七月一百零十三日

七月一百零四日

七月一百零五日

七月一百零六日

七月一百零七日

七月一百零八日

七月一百零九日

七月一百零十日

七月一百零十一日

七月一百零十二日

七月一百零十三日

七月一百零四日

七月一百零五日

七月一百零六日

七月一百零七日

七月一百零八日

七月一百零九日

七月一百零十日

七月一百零十一日

七月一百零十二日

七月一百零十三日

七月一百零四日

七月一百零五日

七月一百零六日

七月一百零七日

七月一百零八日

七月一百零九日

七月一百零十日</

制限の字句に囚はれ 産業を見殺にするか

憲法條項は適當演譯解釋をなせ

ジヨルナルドブラジル紙の正論

下要求せられる事氏人策を講じ

労力問題の解決に乘出す権利を義

トフカル紙は純理解釋をな

る表題で極めて注目すべき論説を

掲載した、其の要旨を摘要すれば

次の如し

伯國新憲法は其の規定の條文によ

つて如何なる移民も如何なる數に

於てその來航を欲すと批評する

ものあるも國利を増進する見地

より政府自身により獎勵される移

民にこの批評を適用すべきではな

い、即ち憲法精神の規範的、實際

的、冷然的解釋によればこの限界

は任意的移民のみに適用し國家經

済の必要上政府がせう通する移民

の入國に就いては政府の裁量に一

任すべきものである

この解釋の眞理は當面起りつあ

る幾多の自明且断然なる事實に徵

すれば明瞭なり、即ち咖啡耕地

耕作地帶の労働者の不足は益々切

迫り、栽培並に收穫のため労働者

の結合を來ししつつあり

茲に於て國富源を開拓し、生産

の最大能力を擧げる爲に政府は刻

意の努力不足の聲の嘆しい折柄去

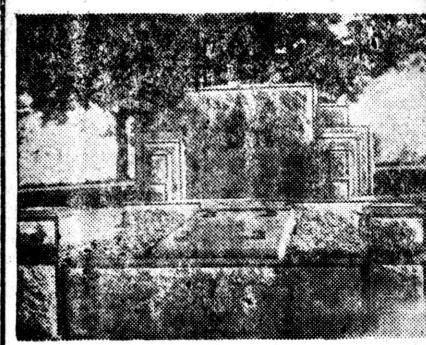
る二十五日リナ發行「ヨロシナル

ド」紙は純理解釋をな

る表題で極めて注目すべき論説を

掲載した、其の要旨を摘要すれば

次の如し



完成した
黒石本社長
パウル一人

故河田博士の墓石
聖市サンバタロ共同墓地

時 刺 東 西 百 間 幸

(日曜) 日七十二月七月十和

サンタ・カーザへ 蔬菜寄贈

コチア産組の篤行

話住の街

唯一の新ひ島として、多數の人々が

を取締してゐるサンタカーザは全

く人種の精神に基いて設立され

たる為の防衛であつたので國家産業

が故に政府は不適當なる移民

を防遏すると共に過度なる労力の

人間の消耗をなくすべき

たる為の防衛であつたので國家産業

が故に政府は不適當なる移民

唯の新ひ島として、多數の人々が

心から日本人の深い愛の精神にな

るものは毎年其の数を増し常に邦

人意識の消耗を断つたことはない

従つて開拓開拓でも個人または團

体の名義で屢々蔬菜類を寄贈して

あることは其都度發表されてゐる

が、今回第六回目の寄贈として

七月五日代表者は一慶のカミニヨ

ンにこれ等人々の貢物の

の談による事以此に自ら自分の耕

業としてサンタカーザに寄贈した

地に出現した事もあらうので安心し

レボリューション田代

ス氏はエコノミーの爲の募金集めの

開始計畫中であるが、何故義勇軍

ル黒人オーランド、フェルナンダ

ス氏はエコノミーの爲の募金集めの

前略記も觀得れる

所で伯國に於てもエコノミーの

援助け、我等が兄弟を救ひ、

ヨーロッパの献金募集中開始された模

様で一方、在住の伊太利人が組

るを自下第七回目募集中であ

る。

シースミー外人は元、常組合に勤めてゐたが、インチャが監修して間もなく解雇されたところ、リオ、パルトに現れ又々邦人相手の手を伸べんとして居る由

セーバリス方面に巡回せしめ申すべく候間何分の御高配を願りたく御願ひ申上候

去る七月十日より六日同州立職業學校にて裁縫學校教師の検定試験が施行された、受験總數百六十六名中、合格者八十名、内日本は左の七名合格した。

青木さみ代(ノロエス)、伊藤ローザ(聖市)、浅野まよ(小林)、郷原ます(日伯安田敏子)、大室幸枝(女學院)亦間違ひ答えた。

本人は左の七名合格した。

青木さみ代(ノロエス)、伊藤ローザ(聖市)浅野まよ(小林)郷原ます(日伯安田敏子)、大室幸枝(女學院)亦間違ひ答えた。

本人は左の七名合格した。

青木さみ代(ノロエス)、伊藤ローザ(聖市)浅野まよ(小林)郷原ます(日伯安田敏子)、大室幸枝(女学院)亦間違ひ答えた。

本人は

